

御機嫌よう!

團員百八十名

載せて

りおでじやねろ丸出帆

本社創立二十周年記念母國觀光團は愈々本二十日サントス出帆のりおでじやねろ丸で鹿島立つこととなつた。本年は新年九日間に亘る郵便龍巣に崇られ締約の十五日前後に一齊参加團員押寄せ來つたため數名の係員は全く昼夜航行で諸般の準備を進め總領事館、警察方面にも時間外の執務を請願する等の事情に在つたが何れもよく實情を諒解してくれ兎に角本日百八十名の團員を送り得ることになつたのは喜ばしい。

本社では在聖中の團員お互の顔つなぎの爲め去十六日午後二時日本クラブで茶話會を催したが團員七十餘名の外來賓として市毛總領事、島田拓務書記官、中野海興支店、加藤

プロ括の諸氏臨席、三浦本社長の挨拶に次いで別項の如き市毛總領事の送別の辭ありシヨップの満をひいて記念寫真撮影、午後五時すぎ散會した。手續を完了した團員は昨日までに大部分サントスへ下り残部は本日午前中に下機、乗船の上りお丸は午後六時出帆の筈である。

苦鬪實に廿四年 晴れの錦衣歸國

福岡縣人 石田朝太郎氏

モヂアナ線グワラ驛モンテアルト耕地の石田朝太郎氏（福岡縣人）は明治四十五年五月着伯の古参組で在廿四年間七轉八起、奮闘を續けた甲斐あつて米作及び棉作に恵まれ宿成つて此の人の感想を叩けば……

老妻迎ひに

六十六才の岩本老

：歸りは金婚蜜月の旅
▼：觀光團一統の最年長者は七十八歳の平江老人であるが、その親しんで勿論再渡伯する豫定であるといふが、氏について歸りも老の元氣當るべからざるもの

び棉作に恵まれ宿成つて此の人の感想を叩けば……

ト耕地の石田朝太郎氏（福岡縣人）は明治四十五年五月着伯の古参組で在廿四年間七轉八起、奮闘を續けた甲斐あつて米作及び

古参組で在廿四年間七轉八起、奮闘を續けた甲斐あつて米作及び

古参組で在廿四年間七轉八起、奮

本社創立二十周年記念

受付

拜啓各位益々御清榮之段賀し奉ります
私事日伯觀光團に參加母國訪問致す可く御地を出發致しました節は遠路わざ／＼御見送り下され且つ御町重なる御餞別を辱し誠に有難く厚く御禮申し上げます、一々御禮申し上ぐる筈でござりますが色々書き申しきの意を得ませんので略儀乍ら紙上で御禮申し上げる次第で御座ります
末筆乍ら皆様の御健康を御祈り申し上げます

<p>謹啓各位倍々御健勝の段奉賀候 陳者小生今回子女教育の爲日伯觀光團員として歸國仕候に就いては種々御厚配に頂りその上過分の御錢別途貯載申候り深謝の至りに存候一々參上御禮申述可き處時日も切迫せり略儀乍ら紙上を以つて御挨拶申上候尙皆様の御健勝の程祈上候</p>
<p>歸國御挨拶</p>
<p>拜啓各位倍々御清祥の段奉大賀候</p>
<p>陳者小生日伯觀光團に加はり歸國仕候に就いては在伯中々年御交誼御観察達に頂りその上錦地出發に際しては遠路わざわざお見送り下され且は過分の御餞別迄賜はり誠に有難くお禮申上候一々參上御禮申述べき處帆時日も切迫せり略儀乍ら紙上を以て御挨拶に代へ御尊家皆様の御繁榮程祈上候</p>
<p>辱知諸彦</p>
<p>歸國御挨拶</p>
<p>拜啓私事この度一身上の都合に依り一時歸國するに當りましては種々御配慮を賜はり有難く厚くお禮申し上げます</p>
<p>尙皆様の御健勝を祈りつゝ略儀乍ら紙上を以て御挨拶申上げます</p>
<p>一月十八日</p>
<p>ジヨゼ・テオドーロ皆様</p>
<p>御禮</p>
<p>私儀日伯社營業部に在勤中は種々御配慮に頂り有難く御禮申上ます、此度觀光團助手として歸國、年末迄に再び辰の参上豫定でありますから其節は宣敷御願ひ致します、末筆ながら皆様の御健在を祈り上げます</p>
<p>小齋俊雄</p>
<p>姪中嶋春江</p>
<p>馬淵庄太郎</p>
<p>後藤七郎</p>
<p>渡邊清吉</p>
<p>歸國御挨拶</p>
<p>辱知諸彦</p>
<p>疲勞の霧散となります</p>
<p>明るい朝らかな感じのよい御食事の美味しい</p>
<p>氣樂な泊り心地は</p>
<p>弊館での御一泊は凡て旅の</p>
<p>廣島屋旅館</p>
<p>西田盛</p>
<p>聖市コンデ・テ・サルゼーラス街七九番</p>
<p>御在聖中は充分に親切叮嚀一切の御世話をいたします</p>